

満開の河津桜を堪能した桜ツアー

常務理事・事務局長 柚原 正敬

新竹の河津桜

台湾は今でも旧暦でお正月（春節）

を迎えていて、一年でもっとも大事な祝祭日としてお祝いしています。今年の春節は二月十九日で、そろそろ年の



新竹市で李宏生・副市長ご夫妻（右4・5）や楊根棟さん（右7）らの出迎えを受け満開の河津桜を背景に記念撮影（2月8日、新竹公園）

瀬の雰囲気が漂いはじめる二月八日から十一日にかけて、今年の「台湾・桜ツアー」を実施しました。

新竹には「桜守」とも言うべき、日本語世代の楊根棟さんや洪日盛さんがいます。また、新竹市李登輝之友会の張震天会長も桜が大好きで、楊さんたちと力を合わせ、日本から贈られた百四十本の河津桜を子供を育てるように大事に育てて、接木で増やしてきました。今では新竹市内に千本もの河津桜が植えられているようで、数年前からは桜祭りを開くほどになっています。そこで、今回はまず新竹の河津桜を見に行こうということで、桜ツアー初日の八日に訪問しました。

新竹公園に近づくとも満開の河津桜が



今年の「河津桜まつり」のポスターに感嘆して見入る李副市長と右下でポスターを押さえる夫人（2月8日、新竹公園）

目に入ってきました。日曜日の午後、新竹名物の阿里山降しの強い風が吹き抜ける寒い日にもかかわらず、大勢の人々がそぞろ歩きで花見を楽しんでいました。千鳥ヶ淵を思い出させます。この公園で楊根棟さんに出迎えていただいたのですが、新竹市政府の李宏生・副市長ご夫妻はじめ桜担当部署の部長や副部長、鄭貴元・市議など錚々たる方々が、日曜日にもかかわらず出迎えていたのには恐縮しました。

ご挨拶の後で、日本から持参した静



たくさんの花見客であふれる新竹公園（2月8日）

岡県河津町で開かれている今年の「河津桜まつり」のポスターを広げながら李副市長に差し上げますと、これが本場の桜祭りかと感嘆した様子で受け取っていただきました。

実はこのポスターは、この桜ツアーに毎年参加されている方が今年は先約があつてやむなく断念したものの、せめてポスターを持って行って欲しいという事で持参したポスターです。

その後、李副市長ご夫妻の案内で公園内に咲く満開の花を愛でながら、し



李登輝元総統揮毫の門標を掲げる台北日本人学校の居原田晃教頭（右）に「河津桜まつり」のポスターをプレゼント。（2月9日、台北日本人学校校庭）

ばし散策。花見デートなのか、若いカップルも少なくなく、桜を背景に写真を撮り合うなど本当に多くの人が楽しんで散策しています。

この日は台北に宿泊しますので、夕刻、後ろ髪を引かれる思いで新竹を後にしました。

台北日本人学校の河津桜

二日目の二月九日は、まず蔡焜燦先生（李登輝民主協会名誉会長）と台北日本人学校で落ち合い、教頭の居原田



河津桜を台北日本人学校に寄贈植樹した蔡焜燦先生（左）と居原田教頭（2月9日、植樹した校庭）

晃先生のご案内で校内に植えてある河津桜を見学。

その前に校長室に立ち寄って「河津桜まつり」のポスターをプレゼント。

見回しますと、一昨年五月に李元総統が講演された折に揮毫いただいた色紙が張つてあり、学校では講演後、「台北市日僑学校」という門標の揮毫もお願いし、現在、正門の右側にあり、実物は校長室に掲げられていました。

校内のあちこちに植えてある桜も咲いてはいましたが、新竹の桜と比べる

と花の数も少なく、樹勢が弱い感じでした。粘土質の土壌ですので水捌けがあまりよくないのかもしれない。それでも、生徒たちは桜が咲くと本当に喜んでくれるそうで、蔡先生も贈り甲斐があるとおっしゃっていました。

烏山頭ダムの河津桜

次に向かったのは烏山頭ダム。この畔に河津桜が植えてあります。一行は台北駅から台湾高铁で一路、嘉義へ。烏山頭ダムでは、日本語世代の黄圳



烏山頭ダムを知り尽くす日本語世代の黄さん（左）と顔さんに案内していただき大満足（2月9日、烏山頭ダム）

福さんと顔雲鴻さんに案内していただきました。八田與一技士などの話を伺いながら、復元した官舎や新たに建立された八田外代樹夫人の子供を抱いた銅像などを見学。官舎の庭には枝垂れ桜が植えてあり、花もちょうど見頃で官舎にとっても似合っていました。

映画「KANO」で、烏山頭ダムが完成して放水する場面が登場します。まさにここで撮影した場面で、特別の計らいで放水口の真上にあるベランダから見学させていただきました。何度

もこの放水口を訪れていますが、この建物内に入ったのは初めてで、外から見ると追力があります。また、ダムの管理処は放水口から少し離れたところにあるのですが、王志誠主任の特別の計らいで、初めて管理処二階のベランダに上げていただき、烏山頭ダムを一望するかのような素晴らしい眺めを堪能。おまけに、女性職員にコーヒーまでふるまっていたり、厚遇にあずかり本当に恐縮しました。河津桜は八田坐像に行く道の斜面一



復元された官舎の庭に咲くちょうど見頃の枝垂れ桜（2月9日、烏山頭ダム）

情牽臺日 邦誼永固
字全存幾園
主席文化復興財團理事 李登輝



河津桜に掛けられたプレートの揮毫は李登輝元総統だった（2月9日、烏山頭ダム）

面に植えてあり、残念ながらほとんど散った後でした。プレートが掛けてあり、よくよく見ますと李登輝元総統が揮毫されたもので「情牽臺日 邦誼永固」と書かれていて、やはり李登輝先生は日台関係を象徴する方だと改めて思われました。

次に訪ねたのは、ダムからさほど離れていないところにある官田慈聖宮。

大きな廟で、その二階の一角に八田記念室があり、八田夫妻の木像や八田技士の当時の写真、戸籍票なども展示していました。記念室を作ったのは六年前の二〇〇九年五月だそうで、台湾の人々が八田技士夫妻を慕う思いがひしひしと伝わってくる、手作り感あふれる記念室でした。

奮起湖の河津桜

三日目となる二月十日は、二〇〇九年に河津桜を寄贈して植樹し、記念の石碑も建立されている嘉義県竹崎郷は奮起湖の中和国民小学へ。



中和国民小学に建立されている植樹記念の石碑と葉桜となった後方左の河津桜（2月10日、嘉義県竹崎郷）

記念植樹のとき、校門に設けたフラワーカーチをくぐると、道の両側に生徒たちが並んで出迎えてくれたことを思い出しながら校門を入っていきます。校長の李宗洲先生に出迎えていただきました。学校は冬休みだそうで、校長室でお話を伺いました。

この河津桜は、海拔一四五〇メートルの高地ながら温暖で、台湾一早く花が咲くそうで、十二月に蕾が膨らんで一月に咲き始め、今年は二週間ほど前に散ってしまったそうです。花が見



中和国民小学の李宗洲校長（左3）と植樹記念碑と河津桜を背景に（2月10日、嘉義県竹崎郷）

えなかったのは、そういうことだったのかと納得。

帰りに校長先生と碑の前で記念撮影して中和国民小学を後にし、一路、台北へ。この日の夜は、台北市内で片倉佳史氏ご夫妻や早川友久氏と夕食を一緒にし、楽しい一夜となりました。

桃園・阿媽坪の河津桜

いよいよ最終日です。この日の朝、ノンフィクション作家の平野久美子さんと元集英社学芸編集部長の細川呉港

さんのお二人と合流、台日文化経済協会が植樹した桃園の阿姆坪^{あむびん}に向かいました。車を走らせること約一時間半、台北の水瓶と言われる石門ダムの畔、阿姆坪に着きました。

すでに黄天麟^{こうてんりん}会長や呂昌平^{ろしょうへい}秘書長も着いていて、桃園市政府農業局からは郭承泉副局長、水利署からは王國樑副局長、ここに河津桜を植樹した桃園国際聯青社の胡義沛社長も参列し、黄会長のご挨拶に始まる植樹祭が行われました。黄会長から「櫻縁繫誼 台日友



記念の楯を贈る黄天麟・台日文化経済協会会長（2月11日、桃園・阿姆坪）

好」と記した記念の楯をいただき、いよいよ記念プレートの除幕式。プレー

トには「台日友好及び景観美化のため日本李登輝友の会より寄贈の河津桜の苗木は……ここ阿姆坪に植樹いたします」と記されていて、一同大感激。

本会からは「河津桜まつり」のポスターなどをお贈りしましたが、市政府の方々や胡社長にも、大きく育てて欲しいとの願いを込めてこのポスターをプレゼント。それぞれ嬉しそうに受け取り、感嘆した面持ちで見ているのが



台湾の台地に河津桜がすくすく育つことを願い記念プレートを囲んで記念撮影（2月11日、桃園・阿姆坪）

印象的でした。

阿姆坪という地名は、ここに住むタイヤル族の呼び名だそうで、日当りのよい阿姆坪は空気もきれいで、本当に山紫水明の地。新竹でも奮起湖でも日台共栄のシンボルとしての河津桜は大きく育っています。ここ阿姆坪でもすくすくと育ってくれることを心から祈りつつ、帰国の途に着きました。

なお、昨年度の桜募金は四十三人の方から五十五万七千円を寄せていただきました。深く御礼申し上げます。



「台日友好及び景観美化のため」と記す記念プレート（2月11日、桃園・阿姆坪）